

大雪に対する農作物の事後対策について

令和4年2月10日
農業技術課

令和4年2月10日明け方より降り始めた雪は、10日14時時点で甲府（アメダス）で7cm、河口湖で22cmの積雪となっています。

さらに、13日（月）～14日（火）にも降雪が予想されている地域があり、農業用施設や農作物への影響が心配されます。

| 山梨県の天気予報（7日先まで） | | | | | | | | |
|---------------------------|--------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|
| 2022年02月10日11時 甲府地方气象台 発表 | | | | | | | | |
| 日付 | 今日 10日(木) | 明日 11日(金) | 明後日 12日(土) | 13日(日) | 14日(月) | 15日(火) | 16日(水) | 17日(木) |
| 山梨県 | | | | | | | | |
| 降水確率(%) | -/70/50 | 20/0/10/10 | 20 | 50 | 60 | 30 | 30 | 20 |
| 信頼度 | - | - | - | C | C | A | A | A |
| 甲府 気温 (℃) | 最高 | 2 | 10 (7~12) | 9 (6~13) | 6 (3~11) | 11 (8~13) | 10 (7~13) | 10 (7~12) |
| | 最低 | - | -1 | -6 (-7~-2) | -4 (-7~-2) | -2 (-3~-1) | -3 (-6~0) | -3 (-6~-1) |

次の技術対策により被害や生育への影響の軽減に努めてください。

なお、農業技術課HPに、農業用ハウスと果樹棚の雪害防止対策指針（大雪に対する技術対策資料）を掲載していますので、参考にして下さい。

雪害対策HPアドレス

http://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/documents/02_setsugaitaisaku_manual.pdf

除雪作業や施設の修復などは危険を伴うため、ヘルメット等の保護帽を着用するとともに、滑りにくい履き物や手袋での作業を行う。万が一の事を考慮して、作業は複数人で行う。

また、危険を感じたら、直ちに作業を中止することも必要です。自らの身を守りつつ、十分に安全に配慮して作業を行う。

1. ハウス・施設、果樹棚など

ハウスやブドウ棚の復旧については、農業用ハウスと果樹棚の雪害防止対策指針（大雪に対する技術対策資料）に詳細が掲載してあるので参考にする。

(1) 果樹・野菜・花などの施設栽培

- ・屋根などの積雪により、ハウス内への日射の減少で生育が遅れたり、多湿になり病害が発生しやすくなるので、速やかに除雪や雪を融かす。
- ・ハウスが連棟の場合、積雪荷重が偏らないよう中央部から除雪を行う。
- ・狭い間隔で隣接するハウスがある場合、ハウスとハウスの間に落雪した雪が堆積す

ると、横方向からの圧力による倒壊の原因となるので、ハウス周囲の落雪が多い場合は除雪を行う。

- ・ハウスの内張カーテンを開け融雪を促進する。暖房機を運転してハウス内の暖気を拡散するなどし、屋根部分の雪を滑り落ちやすくする。
- ・倒壊したものは、できるだけ早く資材を撤去し、果樹では樹の保護に努め、野菜や花ではビニールトンネルなどにより、植物を保護する（夜間コモがけする）。一部破損したものは、除雪し、破損箇所の修復を行う。

(2) 果樹棚

- ・棚面に着雪している場合は、速やかに除雪するとともに、棚等を点検し、支線の緩み、アンカーの浮き上がり、帆柱の損傷などが見られる場合には、早急に補修・補強を行う。
- ・倒壊や破損した場合は、できるだけ早く資材の撤去や修復により樹体を保護する。

(3) トンネル栽培

- ・除雪し、破損しているものは早急に補修する。

2. 被害樹体の保護（果樹）

樹体の保護については、農業用ハウスと果樹棚の雪害防止対策指針（大雪に対する技術対策資料）に詳細が掲載してあるので参考にする。

(1) ブドウ等の棚栽培

- ・樹体の裂傷等の被害を確認し、主幹部等に亀裂が発生している場合には、マイカー線等による結束を行ってから、支柱等を利用し樹体を持ち上げる。なお、傷口にはビニール等を巻き付け雨水がしみこまないようにする。
- ・凍寒害対策として、肥料袋等を主幹部分に巻き付け樹体を保護するとともに、樹もとの防寒対策（敷ワラ等）もあわせて実施する。

(2) 立木類

- ・倒れたものは、根を痛めないように起こし、支柱で固定する。
- ・主枝、亜主枝等に亀裂が発生している場合には、マイカー線等による結束とビニールを巻き付け、支柱などで固定する。裂傷がひどく固定できない場合は、切除し切り口に癒合剤を塗布する。
- ・枝折れが発生している場合は、枝折れ部分を切除し、切り口に癒合剤を塗布する。

(3) その他

- ・積雪量が多い場合、野菜などでは種・定植を行うほ場やスイートコーン等のトンネルの準備を行うほ場では、堆肥等の散布による融雪対策等を行い、準備が遅れないようにする。
- ・果樹で凍害が予想される場合は、堆肥や炭等の資材を散布し融雪に努める。